

北海道石狩市の沖合で近く、国内最大級の高さ200㍍以上の巨大な風力発電所が稼働を始めた。14基ある出力の合計は11万2000キロワットで8万3千世帯分の電力をまかなえる。

「島国の日本で再生可能エネルギーを大量導入するには海に出る必要があった」。事業を手がけるグリーンパワーインベストメント（GPI、東京・港）の坂井田久未・開発担当マネージャーは説明する。

四方を海に囲まれた日本で太陽光と並んで導入期待が高いのは風力発電だ。なかでも洋上の設置余地は大きく、日本風力

再生 エネ3倍 重い宿題

風力余地、海は陸の3.5倍

工事難しく、資機材は海外依存

発電協会は洋上が陸上の3・5倍あると試算する。ただ、洋上風力の実績は乏しく、石狩での工事も困難を極めた。当初計画で2020年だった核動開始は大きく遅れた。サケやニシンなどの好漁場で知られる石狩湾で、最初の洋上風力は、長期にわたる運用を前に地元漁

業者の理解を得るのがまず大事だった。石狩湾漁業協同組合の新明正英委事は漁業への影響を懸念して「三つ返事でいいとなつたわけではなかつた」と明かす。

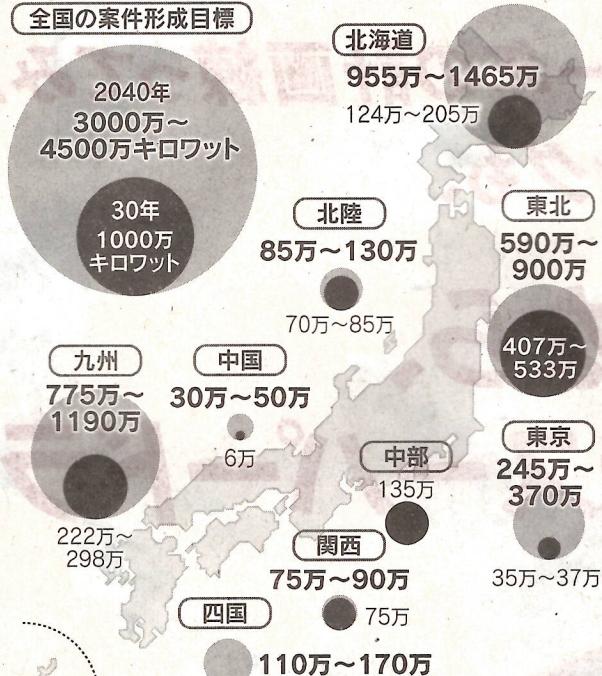
資機材は多くが海外で、手順書に従って陸上で、風力の経験がある日本で、工事を阻んだ。基礎固めが重要となる。強風、高波、落雷など、地盤が固く、地震も少ない欧州と異なり、日本での洋上風力は、建設認可に期間を要した。地盤が固く、基礎固めが重要となる。強風、高波、落雷など、工事を阻んだ。

島市の沖に浮かぶ。地を
島市に風力発電を巡っては
島市に菱重工業や日立製作所
島市にいった大手が風車製造
島市にいら撤退し、海外製に依
島市にする構図に陥った。産
島市に基盤の厚みを取り戻す
島市に要がある。
島市につくった電気を有効
島市に活用するには送電網の
島市に強が欠かせない。洋上

がつた。負担の分からず、三
いが新たな論点となる。
と 石狩の事業では余剰電
力を使って水素を生産す
ることも検討している。
か 洋上風力で先行する英國
存 やオランダなど、歐州で同
様の計画は進む。電力の導
業 増入拡大を加速させること
に にもなる。

現場の人材育成急務

洋上風力発電の導入が加速する



(出所) 経済産業省

「作業のたびに外国人監督者を招く必要があつた」(G.P.I.関係者)。政府は国内での洋上風力の新規案件を30年までに計10000万キロワット、40年までに30000万、45年までに50000万キロワット形成する狙いだ。現在は陸上分を含めても4800万キロワットすぎない。現場の作業員や監督者の人材育成は急がれる。

力は強い風が吹き続ける北海道や東北、九州といった地方が適地とされるが、需要地の首都圏からは遠く離れている。

全国規模で6兆～7兆円と国が試算する巨額の整備費用の負担方法が問われる事になる。